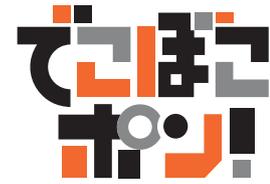


## 時間を見えるように工夫しよう

全日本特別支援教育研究連盟 研究部長 山中ともえ



今回のでこりん！のテーマは「時間を知る発明品」です。

1分、10分、1時間… どの程度時間が過ぎていったのかという感覚は、正確ではなくとも、おおよそ感じることができます。しかし、感覚は、目に見えるものではありません。この時間が進んでいく感覚が分かりづらい子供もいます。時間が過ぎる感覚がうまくつかめないことから、準備が間に合わなかったり、決まった時間内に作業を終わらせることができなかったりすることがあります。このようなことが多いと、失敗経験が続き、自信をなくしてしまいます。今回は、その見えない時間を見えるようにする発明品のお話です。

でこりんは、ぼこすけと出かける約束をしていましたが、時間に間に合いません。以前の「やることリスト」を思い出して、朝にやることを書き出しましたが、やるが多すぎるようです。そこで、一つのことにとどのくらい時間がかかるか分かる「じかんはかるう」という物を発明します。これを使うと、ハミガキの時間は10分でしたが、10分と言われても、でこりんにはよく分かりません。そこでかかった時間に色をつけて、目で見て「進んだ時間を分かるようにする」とピンとくるようになります。そうすると時間がかかりすぎることに自分で気がつき、優先順位をつけ、しぼることの必要性を感じます。

でこりんなりにやることをしぼりますが、それでも、やることの時間が足りなさそうだと感じます。ぼこすけからは、かたづけの時に遊んでいる指摘されると、「じかんはかるう」から、制限時間を設定して「ゲーム感覚でやってみよう」と誘われます。そのことにより、でこりんは、集中することができ、楽しんで早くかたづけができました。タイマーを使うなど、時間を見えるようにすることで、楽しみながら時間の感覚を補う工夫をするとよいでしょう。

でこりんはやることをだいぶしぼれましたが、まだ多すぎることに気がつきます。ぼこすけから「かんがえごと」は朝しなくてもいいのではないかと、言われますが、「かんがえごと」はでこりんにとってはとても必要な時間なのです。ポンから「大事な時間は人それぞれちがう」と伝えられ、でこりんは、それならその分、朝早起きするということを自分で決めます。

この優先順位を決めていく作業も大切な過程です。子供も自分で時間のかかり方が具体的に分かってくると、何を大切にしたいかは、周囲が考えていることと異なることもあるかもしれません。しかし、自分で決めていくことにより、解決方法も自分で見つけていくことでしょう。